

経口血糖降下剤

劇薬・処方箋医薬品

グリクラジド錠 20mg「サワイ」
グリクラジド錠 40mg「サワイ」

(グリクラジド錠)

2022年 4月

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30
TEL: 0120(381)999

使用上の注意改訂のお知らせ

この度、下記のとおり使用上の注意を自主改訂致しますので、お知らせ申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 改訂内容 (下線部改訂又は追加箇所、取り消し線部削除箇所)

改訂後	改訂前												
<p>3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)</p> <p>1) 血糖降下作用を増強する薬剤</p> <p>(3) 薬剤名、機序:</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名</th><th>機序</th></tr></thead><tbody><tr><td>インスリン製剤 DPP-4阻害剤 シタグリプチン等 GLP-1アナログ インスリン抵抗性改善剤 ピオグリタゾン <u>α-グルコシダーゼ阻害剤</u> アカルボース ボグリボース ミグリトール ピグアナイド系薬剤 メトホルミン等 <u>イメグリミン塩酸塩</u> 等</td><td>これらの薬剤の血糖降下作用による。</td></tr><tr><td>サルファ剤 スルファメトキサゾール等</td><td>サルファ剤によるスルホニル尿素系薬剤の蛋白結合の阻害、肝代謝の抑制等が考えられている。</td></tr></tbody></table>	薬剤名	機序	インスリン製剤 DPP-4阻害剤 シタグリプチン等 GLP-1アナログ インスリン抵抗性改善剤 ピオグリタゾン <u>α-グルコシダーゼ阻害剤</u> アカルボース ボグリボース ミグリトール ピグアナイド系薬剤 メトホルミン等 <u>イメグリミン塩酸塩</u> 等	これらの薬剤の血糖降下作用による。	サルファ剤 スルファメトキサゾール等	サルファ剤によるスルホニル尿素系薬剤の蛋白結合の阻害、肝代謝の抑制等が考えられている。	<p>3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)</p> <p>1) 血糖降下作用を増強する薬剤</p> <p>(3) 薬剤名、機序:</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名</th><th>機序</th></tr></thead><tbody><tr><td>インスリン製剤 DPP-4阻害剤 シタグリプチン等 GLP-1アナログ インスリン抵抗性改善剤 ピオグリタゾン <u>α-グルコシダーゼ阻害剤</u> アカルボース ボグリボース ミグリトール ピグアナイド系薬剤 メトホルミン等</td><td>これらの薬剤の血糖降下作用による。</td></tr><tr><td>サルファ剤 スルファメチゾール スルファメトキサゾール等</td><td>サルファ剤によるスルホニル尿素系薬剤の蛋白結合の阻害、肝代謝の抑制等が考えられている。</td></tr></tbody></table>	薬剤名	機序	インスリン製剤 DPP-4阻害剤 シタグリプチン等 GLP-1アナログ インスリン抵抗性改善剤 ピオグリタゾン <u>α-グルコシダーゼ阻害剤</u> アカルボース ボグリボース ミグリトール ピグアナイド系薬剤 メトホルミン等	これらの薬剤の血糖降下作用による。	サルファ剤 スルファメチゾール スルファメトキサゾール等	サルファ剤によるスルホニル尿素系薬剤の蛋白結合の阻害、肝代謝の抑制等が考えられている。
薬剤名	機序												
インスリン製剤 DPP-4阻害剤 シタグリプチン等 GLP-1アナログ インスリン抵抗性改善剤 ピオグリタゾン <u>α-グルコシダーゼ阻害剤</u> アカルボース ボグリボース ミグリトール ピグアナイド系薬剤 メトホルミン等 <u>イメグリミン塩酸塩</u> 等	これらの薬剤の血糖降下作用による。												
サルファ剤 スルファメトキサゾール等	サルファ剤によるスルホニル尿素系薬剤の蛋白結合の阻害、肝代謝の抑制等が考えられている。												
薬剤名	機序												
インスリン製剤 DPP-4阻害剤 シタグリプチン等 GLP-1アナログ インスリン抵抗性改善剤 ピオグリタゾン <u>α-グルコシダーゼ阻害剤</u> アカルボース ボグリボース ミグリトール ピグアナイド系薬剤 メトホルミン等	これらの薬剤の血糖降下作用による。												
サルファ剤 スルファメチゾール スルファメトキサゾール等	サルファ剤によるスルホニル尿素系薬剤の蛋白結合の阻害、肝代謝の抑制等が考えられている。												

2. 改訂理由

相互作用相手薬との記載の整合を図るため、改訂致しました。



☆ 改訂後の電子化された添付文書につきましては、医薬品医療機器総合機構ホームページ(<https://www.pmda.go.jp>)および弊社の医療関係者向け情報サイト(<https://med.sawai.co.jp>)に掲載致しますので、併せてご参照下さい。